

研修だより

矢島小学校

No.31

06.1.19

算数授業改善の視点

「教育ゆりほんじょう」第9号に掲載された、算数授業改善の視点を紹介します。
共感する点、参考になる点が多くありました。

(1) ねらいの明確化・具体化

ねらいを明確化するとともに具体的な変化でとらえたい。指導と評価の一体化からも的確な評価ができ、その後の支援も適切になる。注意したいのは、前時や次時とのつながりも考慮して、毎時間のねらいは少しずつ進化している点である。

(2) 一単位時間の指導過程の構成を

導入段階を簡潔に短時間で設定し、子どもが好奇心や興味・関心を抱いてすぐ問題を解いてみたいと思わせるような課題の吟味と提示の工夫を図りたい。

(3) 「分かる・分かりやすい授業」の陥る罠

子どもに単に丁寧な授業を提示して、わかったつもりにさせるのではなく、子どもに適度な負荷をかけ、問題を解決できたときに達成感や成就感を持たせる課題設定を心がけたい。

(4) すべて出すという「学び合い」の場の呪縛

算数的活動を行った後の「学び合い・練り合い」の場面では、多様な考え方を可能な限り引き出して終わりではなく、本時のねらいに沿った考え方を焦点化し、ブレないような場を構築したい。

(5) 確かさ故の「定着・練習」の確保

授業の終わりには必ず評価問題を設定し、問題を解いてみて「わかった」「変容した」という自覚を持たせてから授業を終了させたい。自分なりの理解度の軌道修正もできる。最低一つでも解いてから終わりたい。ひいては家庭学習の充実にもつながる。

本校の授業を振り返ってみますと、(5)に関しては、だいぶ浸透してきたと思われます。
(4)も、自覚して進めている学級が多いと思います。

今後留意していきたいのは、(2)(3)です。「導入を簡潔に短時間で設定」「子どもに適度な負荷をかける」ことを実践していきましょう。

教師の説明や解説で子どもが理解できたと思うのは考えもの。その後、自力で問題を解かせてみて初めて、その子が理解できたどうか分かるのですから。